

学位授与方針 (ディプロマポリシー)		①リハビリテーションに関する基本的知識と技術を備えている。												
		②医療の高度化や社会情勢の変化に対応するために学び続ける姿勢を持ち続ける。												
授業科目名		1年		2年		3年		4年		ディプロマポリシー				
		前	後	前	後	前	後	前	後	DP-①	DP-②	DP-③	DP-④	
専 門 科 目	基礎理学療法学	基礎理学療法学	○								○			
		運動発達学		○							○			
		研究方法論					○					○		
		研究方法論演習						○				○		
		理学療法研究							○	○		○		
	理学療法管理学	理学療法概論	○									○		○
		理学療法基礎理論			○						○			
	理学療法評価学	基礎理学療法評価学		○							○			
		神経系検査法		○							○			
		運動器系検査法Ⅰ(関節可動域測定)		○							○			
		運動器系検査法Ⅱ(筋力測定)		○							○			
	理学療法治療学	運動・動作分析学			○						○			
		基礎運動治療技術学			○						○			
		運動器系理学療法Ⅰ(骨折)			○						○			
		運動器系理学療法Ⅱ(スポーツ外傷)			○						○			
		運動器系理学療法Ⅲ(脊椎・関節障害)				○					○			
		神経系理学療法学					○				○			
		中枢神経系理学療法Ⅰ(脳血管障害評価)			○						○			
		中枢神経系理学療法Ⅱ(脳血管障害治療)					○				○			
		中枢神経系理学療法Ⅲ(パーキンソン・失調症)					○				○			
		発達障害系理学療法学					○				○			
		発達障害系理学療法学演習							○		○			
		内部障害系理学療法学					○				○			
		内部障害系理学療法学演習							○		○			
		理学療法評価治療演習				○					○			
		物理療法学					○				○			
		物理療法学演習					○				○			
		日常生活活動評価学		○							○			
		日常生活動作指導法				○					○			
		義肢・装具学					○				○			
		義肢・装具学演習							○		○			
	神経系理学療法治療技術							○		○				
	運動器系治療技術Ⅰ(運動機能障害の評価と治療)						○			○				
	運動器系治療技術Ⅱ(徒手理学療法)							○		○				
	地域理学療法学	地域理学療法学					○					○		○
		生活環境整備学					○					○		○
	臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	○	○							○		○	
		臨床見学実習Ⅱ					○	○			○		○	
		臨床評価実習			○	○					○		○	
		臨床実習Ⅰ					○	○			○		○	
臨床実習Ⅱ								○	○	○		○		

福井医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 カリキュラム・マップ

学位授与方針 (ディプロマポリシー)		①リハビリテーションに関する基本的知識と技術を備えている。 ②医療の高度化や社会情勢の変化に対応するために学び続ける姿勢を持ち続ける。 ③チームやグループ内で他者に働きかけながら目標に向かって協働する。 ④広く国民の保健・医療・福祉の向上に寄与しようとする姿勢を備えている。															
		授業科目名		1年		2年		3年		4年		ディプロマポリシー					
				前	後	前	後	前	後	前	後	DP-①	DP-②	DP-③	DP-④		
一般 教育 科目	科学的思考の基盤	安全学				○							○				
		教育原理	○														
		教育方法論		○													
		統計学		○											○		
		情報科学	○												○		
		人間工学		○										○			
	人間と生活	心理学	○										○				
		生命倫理	○										○				
		英語Ⅰ (社会と文化)	○											○			
		英語Ⅱ (健康と医療)		○										○			
		英語Ⅲ (総合演習)			○									○			
		英会話	○	○										○			
		スポーツ医学			○												
		スポーツ栄養学Ⅰ			○												
		体育Ⅰ	○														
	体育Ⅱ	○										○					
	社会の理解	フレッシュャーズセミナーⅠ	○									○			○		
		フレッシュャーズセミナーⅡ	○									○			○		
		人間関係論		○								○					
日本国憲法		○														○	
コーチング論		○															
専門 基礎 科目	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学総論	○									○					
		解剖学演習Ⅰ	○									○					
		解剖学演習Ⅱ	○									○					
		解剖学演習Ⅲ		○								○					
		生理学	○									○					
		生理学演習		○								○					
		運動学		○								○					
		運動学演習(バイオメカニクス)			○							○					
		人間発達学		○								○					
	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	臨床心理学							○			○					
		内科学Ⅰ			○							○					
		内科学Ⅱ			○							○					
		臨床神経学		○								○					
		臨床神経学演習			○							○					
		整形外科学		○								○					
		スポーツ整形外科		○								○					
		精神医学		○								○					
		病理学		○								○					
		リハビリテーション医学診断学			○							○					
リハビリテーション医学治療学			○							○							
保健医療福祉と リハビリテーション の 理念	臨床栄養学			○							○						
	薬理学			○							○						
	救急処置		○								○						
	リハビリテーション概論	○									○				○		
	保健医療論	○									○				○		
	チーム医療論					○					○		○				
	環境と健康	○									○				○		
	ナラティブ概論					○					○						
	社会保障制度								○		○						
	スポーツ心理学					○					○						
スポーツ内科学		○								○							

学位授与方針 (ディプロマポリシー)		①リハビリテーションに関する基本的知識と技術を備えている。											
		②医療の高度化や社会情勢の変化に対応するために学び続ける姿勢を持ち続ける。											
		③チームやグループ内で他者に働きかけながら目標に向かって協働する。											
		④広く国民の保健・医療・福祉の向上に寄与しようとする姿勢を備えている。											
授業科目名		1年		2年		3年		4年		ディプロマポリシー			
		前	後	前	後	前	後	前	後	DP-①	DP-②	DP-③	DP-④
専 門 科 目	基礎作業療法学	作業療法概論	○							○		○	
		研究法				○						○	○
		研究法演習					○					○	○
		作業療法研究						○	○			○	○
		作業分析学		○							○		
		作業技法 (基礎)			○						○		
		作業技法 (編み物・陶芸)				○					○		
	作業技法 (革細工・籐細工)				○					○			
	作業療法管理学	作業療法管理学		○						○		○	○
	作業療法評価学	作業療法評価学	○								○		
		身体機能評価演習Ⅰ		○							○		
		身体機能評価演習Ⅱ			○						○		
		心理社会機能評価演習Ⅰ		○							○		
	作業療法治療学	心理社会機能評価演習Ⅱ			○						○		
		作業治療学の基礎						○			○		
		身体障害作業療法学				○					○		
		身体障害作業療法学演習Ⅰ (脳血管障害・神経系疾患)				○					○		
		身体障害作業療法学演習Ⅱ (脊髄損傷・リウマチ)					○				○		
		身体障害作業療法学演習Ⅲ (骨折・切断・内部障害)					○				○		
		精神障害作業療法学		○							○		
		精神障害作業療法学演習Ⅰ (作業治療法)			○						○		
		精神障害作業療法学演習Ⅱ (臨床関係論)				○					○		
		発達障害作業療法学			○						○		
		発達障害作業療法学演習				○					○		
		高次脳機能障害学			○						○		
		老年期障害作業療法学			○						○		
		老年期障害作業療法学演習				○					○		
		日常生活活動学			○						○		
		日常生活活動学演習				○					○		
		作業療法学演習							○		○		
		作業療法評価実習				○					○		
		作業療法治療実習					○				○		○
		作業療法特論 (基礎)							○		○	○	
	作業療法特論 (身体障害)							○		○	○		
	作業療法特論 (精神障害)							○		○	○		
	作業療法特論 (発達障害)							○		○	○		
	作業療法特論 (老年期障害)							○		○	○		
	地域作業療法学	地域作業療法学				○					○		○
		地域作業療法学演習				○					○		○
		生活環境整備学演習					○				○		○
臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	○	○							○	○	○	
	臨床見学実習Ⅱ				○	○				○	○	○	
	臨床評価実習			○	○					○	○	○	
	臨床実習Ⅰ				○	○				○	○	○	
	臨床実習Ⅱ						○	○		○	○	○	

福井医療大学 保健医療学部 リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻 カリキュラム・マップ

学位授与方針 (ディプロマポリシー)		①リハビリテーションに関する基本的知識と技術を備えている。 ②医療の高度化や社会情勢の変化に対応するために学び続ける姿勢を持ち続ける。 ③チームやグループ内で他者に働きかけながら目標に向かって協働する。 ④豊かな人間性、仁の心を醸成できる幅広い教養を学ぶ。また他専門職を理解し、協働できるための基礎的能力を学ぶ。															
		授業科目名		1年		2年		3年		4年		ディプロマポリシー					
				前	後	前	後	前	後	前	後	DP-①	DP-②	DP-③	DP-④		
一般 教育 科目	科学的思考の基盤	安全学				○							○				
		教育原理	○														
		教育方法論		○													
		統計学		○										○			
		情報科学	○											○			
		人間工学		○									○				
	人間と生活	心理学	○										○				
		生命倫理	○										○				
		英語Ⅰ (社会と文化)	○											○			
		英語Ⅱ (健康と医療)		○										○			
		英語Ⅲ (総合演習)			○									○			
		英会話	○	○										○			
		スポーツ医学			○												
		スポーツ栄養学Ⅰ			○												
	社会の理解	体育Ⅰ	○														
		体育Ⅱ	○										○				
		フレッシュャーズセミナーⅠ	○										○		○		
		フレッシュャーズセミナーⅡ	○										○		○		
人間関係論			○									○					
日本国憲法		○														○	
専門 基礎 科目	人体の構造と機能及び心身の発達	コーチング論	○														
		解剖学総論	○										○				
		解剖学演習Ⅰ	○										○				
		解剖学演習Ⅱ	○										○				
		解剖学演習Ⅲ		○									○				
		生理学	○										○				
		生理学演習		○									○				
		運動学		○									○				
		運動学演習(バイオメカニクス)			○								○				
		人間発達学		○									○				
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床心理学							○				○				
		内科学Ⅰ			○								○				
		内科学Ⅱ			○								○				
		臨床神経学		○									○				
		臨床神経学演習			○								○				
		整形外科		○									○				
		スポーツ整形外科		○									○				
		精神医学		○									○				
		病理学		○									○				
		リハビリテーション医学診断学			○								○				
		リハビリテーション医学治療学			○								○				
		臨床栄養学			○								○				
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	薬理学			○								○				
		救急処置		○									○				
		リハビリテーション概論	○										○				○
		保健医療論	○										○				○
		チーム医療論							○				○		○		
		環境と健康	○										○				○
		ナラティブ概論							○				○				
		社会保障制度									○		○				○

学位授与方針 (ディプロマポリシー)		①リハビリテーションに関する基本的知識と技術を備えている。												
		②医療の高度化や社会情勢の変化に対応するために学び続ける姿勢を持ち続ける。												
授業科目名		③チームやグループ内で他者に働きかけながら目標に向かって協働する。												
		④豊かな人間性、仁の心を醸成できる幅広い教養を学ぶ。また他専門職を理解し、協働できるための基礎的能力を学ぶ。												
		1年		2年		3年		4年		ディプロマポリシー				
		前	後	前	後	前	後	前	後	DP-①	DP-②	DP-③	DP-④	
専門基礎科目	こころと言語の科学	耳鼻咽喉科学			○						○			
		形成外科学				○					○			
		臨床歯科学			○						○			
		発声発語系医学		○							○			
		神経系医学		○							○			
		聴覚系医学		○							○			
		学習・認知心理学					○				○			
		心理測定法			○						○			
		言語学		○							○			
		音声学	○								○			
		音響学	○								○			
言語発達学		○							○					
専門科目	言語聴覚障害学 総論	言語聴覚障害概論	○							○				
		言語聴覚障害診断学演習			○					○				
		言語聴覚研究方法論				○				○	○			
		言語聴覚研究						○	○	○	○			
	失語・高次脳機能 障害学	失語症学			○						○			
		高次脳機能障害学			○						○			
		失語症評価演習			○	○					○			
		高次脳機能障害評価演習			○						○			
		失語症治療学				○					○			
		高次脳機能障害治療学				○					○			
	言語発達障害学	言語発達障害学			○						○			
		言語発達障害評価演習			○						○			
		言語発達障害治療学				○					○			
		言語発達障害演習						○			○			
	発声発語・嚥下障害 学	病理音声学		○							○			
		発声発語障害治療学Ⅰ（小児）		○							○			
		発声発語障害治療学Ⅱ（成人）			○						○			
		発声発語障害治療学Ⅲ（音声・非流暢性発話）				○					○			
		摂食・嚥下障害学			○						○			
		発声発語評価演習			○						○			
		摂食・嚥下評価演習				○						○		
		摂食・嚥下障害治療学				○						○		
	聴覚障害学	成人聴覚障害学			○						○			
		聴覚障害評価演習				○					○			
		小児聴覚障害学				○					○			
		聴覚障害治療学				○					○			
	臨床実習	聴覚補償学						○			○			
臨床見学実習		○	○							○	○	○	○	
臨床評価実習				○	○					○	○	○	○	
臨床実習Ⅰ（訓練）						○	○			○	○	○	○	
選択必修科目	臨床実習Ⅱ（統合）						○	○		○	○	○	○	
	カウンセリング					○				○			○	
	言語聴覚検査演習Ⅰ（小児）		○							○				
	言語聴覚検査演習Ⅱ（成人）		○							○				
	言語聴覚評価演習			○						○				
	地域参加支援演習Ⅰ（理論）				○					○	○	○	○	
	地域参加支援演習Ⅱ（実践）				○					○	○	○	○	
地域参加論							○		○	○	○	○		
言語聴覚臨床総論							○		○					

福井医療大学 保健医療学部 看護学科 カリキュラムマップ

学位授与方針 (ディプロマポリシー)	<p>1. プロフェッショナリズム D-1</p> <p>1) 看護専門職の基礎となる人格形成と能力を身に付けることが身につけることができる。 ・看護専門職としての基礎となる人格を形成し、社会的スキルを身につけることができる。</p> <p>2) 対象者中心のケアが提供できる。 ・対象者を尊重し、良好な相互作用を成立させることができる。 ・対象者へ安全な医療が提供できる。 ・対象者中心のケア提供に向けて組織環境の整備に取り組むことができる。</p> <p>3) 社会的責任を遂行できる。 ・コミュニティ、専門職集団、社会に対して自らの能力を発揮して貢献できる。 ・法や倫理綱領を理解し社会的責任を遂行できる。</p>	<p>2. 看護の知と実践能力</p> <p>1) 生命(いのち)を護(まも)る看護を理解し実践できる。 D-2-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊厳が理解できる。 ・生命活動が理解できる。 ・生命を脅かす状況が理解できる。 ・生命を脅かす状況を予測し予防できる。 ・生命が脅かされている状況に応じた実践ができる。 <p>2) 生活を支える看護を理解し実践できる。 D-2-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活活動が理解できる。 ・生活を脅かす状況が理解できる。 ・生活を脅かす状況を予測し予防できる。 ・生活を維持・回復させる実践ができる。 	<p>2. 看護の知と実践能力</p> <p>3) その人らしさを支える看護を理解し実践できる。 D-2-3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その人らしさを形づくるものが理解できる。 ・その人らしさを脅かす状況が理解できる。 ・その人らしさを脅かす状況を予測し予防できる。 ・その人らしさを回復させる実践ができる。 <p>4) より健康に生きるための看護を理解し実践できる。 D-2-4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より健康に生きることが理解できる。 ・より健康をめざす実践ができる。
	<p>3. 地域ケア実践能力 D-3</p> <p>1) 社会の変化を捉え保健医療福祉制度を理解し、地域の特性と健康課題をアセスメントできる。</p> <p>2) 地域が抱える健康課題の解決に向けて取り組むことができる。</p> <p>3) 地域の保健医療福祉教育活動に対して自らの能力を発揮して貢献できる。</p> <p>4. 専門職連携能力 D-4</p> <p>1) 専門職連携の意義、目的、目標、および自職種、多職種専門性と責務を理解できる。</p> <p>2) 専門職連携の方法を理解し、専門職種間で対象者の課題解決に取り組むことができる。</p> <p>5. 課題探究・創造する力 D-5</p> <p>1) 批判的思考や分析的思考、創造的思考を活用して看護を実践できる。</p> <p>2) 自らを取り巻く状況で、取り組むべき課題を見出すことができる。</p> <p>3) 根拠に基づく課題解決に向けて主体的に取り組むことができる。</p>		

専攻の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目, ○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)

	授業科目名	1年				2年				3年				4年				学位授与方針 (ディプロマポリシー)							
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	D-1	D-2-1	D-2-2	D-2-3	D-2-4	D-3	D-4	D-5		
一般教育科目	科学的思考の基礎																								
	安全学				○											◎	○	○	○	○					
	教育原理	○														○									○
	教育方法論			○																					○
	統計学			○																					◎
	情報科学	○														◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	人間工学			○													◎	◎	◎	◎	◎				
	人間と生活																								
	心理学	○														○	◎	◎	◎	◎	◎			○	
	生命倫理	○														○	◎	◎	◎	◎	◎			○	
英語 I (社会と文化)	○														◎	○	○	○	○	○				○	
英語 II (健康と医療)			○												◎	○	○	○	○	○				○	
英語 III (総合演習)				○											○						○				
英会話 (医療系英会話)	○	○													○						○				
スポーツ医学				○																○					
スポーツ栄養学 I				○																○					
体育 I	○																			○					
体育 II	○																			○					
社会の理解																									
フレッシュャーズセミナー I	○														○									◎	
フレッシュャーズセミナー II	○														○									◎	
人間関係論			○													◎	◎	◎	◎	◎	○	○			
日本国憲法	○														◎										
コーチング論	○																	○	○	○	○				
専門基礎科目	人体の機能構造																								
	人体構造機能学 I	○														◎	◎	◎	◎	◎	○				
	人体構造機能学 II			○												◎	◎	◎	◎	◎	○				
	生化学			○												◎	◎	◎	◎	◎	○				
	疾病の成り立ちと回復の促進																								
	疾病治療総論			○												◎	◎	◎	◎	◎	○				
	疾病治療論 I (外科)			○												◎	◎	◎	◎	◎	○				
	疾病治療論 II (整形・脳神経)				○											◎	◎	◎	◎	◎	○				
	疾病治療論 III (排泄・感覚・歯)				○											◎	◎	◎	◎	◎	○				
	疾病治療論 IV (呼吸・循環・血液)			○												◎	◎	◎	◎	◎	○				
	疾病治療論 V (腎臓・内分泌・消化器)				○											◎	◎	◎	◎	◎	○				
	老年疾病治療論				○											◎	◎	◎	◎	◎	○				
	子どもの疾病治療論				○											◎	◎	◎	◎	◎	○				
	女性・周産期疾病治療論				○											◎	◎	◎	◎	◎	○				
	こころの疾患治療論				○											◎	◎	◎	◎	◎	○				
	リハビリテーション医学治療学				○													◎	◎	◎	◎	○			
	微生物学			○												◎	◎	◎	◎	◎	○				
	臨床栄養学				○											◎	◎	◎	◎	◎	○				
	薬理学			○												◎	◎	◎	◎	◎	○				
	社会保健支援と制度	チーム医療論							○							○	○	○	○	○	○	○		◎	
看護と法律						○									◎	○	○	○	○	○	○		○		
保健予防活動論					○															○	◎				
環境と健康		○														○				○	◎				
生涯発達心理学				○												○				◎					
健康教育論				○															○	◎					
社会福祉学	○																○	○	○	◎					

基盤看護学	看護の基本となる概念	○								◎	○	○	○	○	○	○	○	
	看護の過去と未来		○							◎								○
	生活を支える看護Ⅰ	○									◎	◎	◎	◎				
	生活を支える看護Ⅱ		○								◎	◎	◎	◎				
	看護コミュニケーション			○							◎	◎	◎	◎				
	看護実践力Ⅰ			○							◎	◎	◎	◎				
	診療・検査に伴う看護		○								◎	◎	◎	◎				
	薬物と看護			○							◎	◎	◎	◎				
	生命を守る看護	○									◎	◎	◎	◎				
	看護管理						○				◎						○	○
	看護と医療安全			○							○	◎	◎	◎			○	
	キャリア開発入門	○									◎							○
	看護研究方法					○					○							◎
	看護研究Ⅰ						○				○							◎
看護研究Ⅱ						○	○			○							◎	
発達領域別看護学	女性のライフサイクルと看護			○						◎					◎	○		
	母子の健康と看護Ⅰ				○						◎				◎	○		
	母子の健康と看護Ⅱ					○					◎				◎	○		
	子どもの成長発達と看護			○						◎	○	○	○	○	○	○		
	子どもの健康障害と看護Ⅰ				○						◎	◎	◎	◎	◎	○		
	子どもの健康障害と看護Ⅱ					○					◎	◎	◎	◎	◎	○		
	思春期健康論				○							◎	◎	◎	◎	○		
	大人の健康と看護		○							◎	○	○	○	○	○	○		
	高齢者の健康と看護		○								◎	○	○	○	◎	○	○	
	健康課題をもつ高齢者の看護			○							◎	◎	◎	◎	◎	○		
高齢者の生活支援と看護				○								◎	◎	◎		○		
専門領域別看護学	地域の人々の理解		○							◎	○	○	○	○	○	○		
	地域で生活する人々の健康と看護			○									◎	◎	◎	◎	○	
	在宅生活を支える看護Ⅰ				○						◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
	在宅生活を支える看護Ⅱ					○					◎	◎	◎	◎	◎	○		
	こころの健康と看護			○						◎	○	○	○	○	○	○		
	こころの疾患の理解と看護Ⅰ				○						◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
	こころの疾患の理解と看護Ⅱ					○					◎	◎	◎	◎	◎	○		
	周手術期看護				○						◎	◎	◎	◎	◎		○	
	リハビリテーション看護					○						◎	◎	◎	◎	○	○	
	生活再構築を支援する看護						○					◎	◎	◎	◎	○	○	
	エンド・オブ・ライフケア							○					◎	◎	◎	○	○	
	クリティカルケア看護										◎		◎				○	
	看護理工学				○							◎	◎	◎	◎			○
	医療的ケア					○						◎	◎				○	
	看護実践力Ⅱ						○					◎	◎	◎	◎			
	看護実践力Ⅲ							○				◎	◎	◎	◎			
認知症看護援助論					○							◎	◎	◎	○	○		
家族看護学							○			◎	◎	◎	◎	◎	○			
国際看護学								○	◎			○	○	○				
専門職連携論								○		○							◎	
災害看護学										◎	◎	◎			○	○		
臨地実習	看護体験実習		○							◎		○					○	
	生活支援実習				○							◎	◎				○	
	対象理解の実習	○								○		○	○	◎				
	育成期看護学実習Ⅰ（周産期）						○	○			◎	◎	◎	◎	◎	○		
	育成期看護学実習Ⅱ（子ども）						○	○			◎	◎	◎	◎	◎	○		
	老年看護学実習						○	○			◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
	広域看護学実習						○	○			◎	◎	◎	◎	◎	○		
	周手術期看護実習						○	○		○	◎	◎	◎	◎				
	生活再構築看護実習						○	○				◎	◎	◎	◎	○	○	
	エンド・オブ・ライフケア実習						○	○					◎	◎			○	
精神看護学実習						○	○				◎	◎	◎	◎	○			
看護総合実習							○		◎	○	○	○	○	○		○	○	